一休（いっきゅう）さんのきつね話　　京都府

むかし、ある人が一休さんをたずねてきて、
「なにかおもしろい話を聞かせてもらえませんか」といいました。
一休さんは、「そうだなあ」と考えてから、こんな話をしました。

「むかし、中国にこんな話があったそうな。
とらがきつねを追いつめて食べようとした。するときつねがいうには、
『なんと、とらよ。わしを食うてはいかん。天の神さまが、きょうから、わしをけものの大将（たいしょう）にしたのだ。わしを食うたら神さまにそむくことになって、バチが当たって、おまえの命がなくなるぞ』
とらは、
『うそをつけ。そんなことは聞いていないぞ』といった。きつねは、
『うそだ思うなら、わしの後についてこい。どんなけものも、みな、わしをおそれて逃げていくから』といった。
とらは、変だとは思うたけれども、きつねの後からついていった。そしたら、どんなけものも、みな逃げていった。
ほんとうは、みな、とらを見て逃げたんだが、とらは、みながきつねをおそれて逃げたと思ったんだな。
こんなきつねはどこにでもおるぞ。だまされたらいかん。ご用心、ご用心」

村上郁再話

資料『一休諸国物語　巻二』「第五　一休、狐ばなしの事」